

治軍事的なアメリカの世界支配体制は大きく傾くだろう。

そのリスクと、日中戦争に巻き込まれるリスクのどちらを取るか。オバマ政権にとっては、それが大きな焦点となるはずです。中長期な射程で中国との新たな勢力均衡を探っている最中なのに、日本が勝手なことをして問題を複雑化するというのが、アメリカ政府の本音でしょうね。

白井 はい。本音はそれだろうと思います。けれども、もし突発的に始まってしまったらどうするのか。もちろん関与はしたくないし、国内世論的に無理でしょう。とすると、介入しないための先手を打っておく必要があります。アメリカにとって、開戦前の梯子外しをするための準備として重要なのはソフトパワー戦略だと思うんです。これは要するに、前もっていかに日本をデモナイズ（悪魔化）するかということです。「日本は狂っていてどうしようもない国だから、助けてもらえなくなってもしょうがないよね」という国際世論、雰囲気形成しておく。アメリカからすれば非常に都合のいいことに、安倍ちゃんとそのお友達というのはそのためのネタをボンボン提供してくれています。こういう「雰囲気形成」などと言うと、陰謀論めいて聞こえるかもしれませんが、そういうことを言いたいわけではありません。確固たる主体による陰謀の有無などどうでもよいのです。こうした雰囲気世界的に形成されるに足る状況がすでに出来ていることが問題なのです。欧

米の有力メディアが一斉にデモナイズする方向へと向かい出したら、もうそれは誰にも止められない流れになります。もしもそういう状態になったら、いよいよ梯子外しも近い。

先日、キャロライン・ケネディが米国大使館のツイッターで和歌山県太地町のイルカ漁を批判しましたよね。あれなんか、すごく怖いなと思います。あの発言には、安全保障問題や歴史認識問題などといったものよりもさらに根の深い文明の衝突という問題が絡んでいる。アメリカは今、そのような極めてデリケートな問題にまで口を挟みつつある。そういう意味で、日米関係の緊張感が目に見えない部分も含めて高まっています。

笠井 アメリカおよび中国と同時に戦う、要するに第二次世界大戦の再現ですね。どう考えても勝てるわけがない戦争ですから、我々にできることは今度こそ徹底的に負けること、いいかげんな「終戦」でなくきちんと「敗戦」すること以外にない。いずれにしても日本列島は、もう一度廃墟になるでしょうが。

白井 内的にはすでに廃墟化しています。今年の秋にプーチンさんが来ますよね。これだけ対外関係が全方位的に悪くなっている中で、ロシアは最後の望みという感があります。日露関係で大いに接近することができれば、外交的にはすごい点数を稼いだことになるわけですけど、これもまた希望的観測にすぎません。何度もプーチン大統領と会っているからといって、それで状況が確かに動くなどとは言えない。